

4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業
ウ 国内での国際交流事業(イングリッシュキャンプ等)

令和7年度 国立諫早青少年自然の家教育事業(諫早市教育委員会委託事業)
International Adventure Day ~Let's enjoy English! ~

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年9月27日(土)

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 諫早市内の小学4年生 児童24名(男子10名、女子14名)

〔担当職員〕 日高 由樹、高山 雄也



〔外部講師等〕 諫早市教育委員会学校教育課職員(5名) 諫早市教育委員会ALT(8名)

鎮西学院大学学生(5名) 法人ボランティア(5名)

1) 事業の趣旨

自然の中で英語を聞いたり、話したり、人に伝えたりする活動や外国人との交流を通して、英語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを感じるにより、コミュニケーションを図る素地となる資質を育てます。

2) SDGs で目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 自然体験活動や外国人との交流を通して英語を楽しく学びます。</p> <p>目標16 平和と公正をすべての人に 外国人や同世代の人たちと英語で交流することでお互いの理解を深めます。</p>
--	--	--

3) 目標

「Let's make many English memories!」

4) 研修プログラム

9月27日(土)	
10:00	受付
10:15	「開会式」
	「Let's get started!」
	【写真①】
10:30	「Let's be friends!」
	【写真②】
11:00	「Let's enjoy forest bingo game!」
	【写真③】
12:00	昼食(レストラン)
13:00	「Let's play games!」
	【写真④】
14:30	「Let's review today's activities!」
	【写真⑤】
14:45	「閉会式」
15:00	終了

5) 事業展開

①「Let's get started !」【写真①】



一日活動を共にする、ALT→ボランティア
→自然の家職員→市役所職員の順で自己紹介
を行い、一緒に活動するメンバーを確認する
ことができました。

②「Let's be friends !」【写真②】



全員が参加する英語を使ったゲームを行いました。たくさんの人と簡単な英語フレーズを使って話すことで、緊張がほぐれ、たくさんの笑顔が生まれました。ALTとも積極的に話す姿は印象的でした。

③「Let's enjoy forest bingo game!」【写真③】



森の中で、ビンゴゲームを行いました。4×4マスのビンゴシートを手に、森の中の様々な自然物を班ごとに探しました。班ごとに見つけたものの大きさや色、形が異なり、各班の個性が光る時間でした。ALTと一緒に、自然物を示す英単語を話しながら、真剣に自然物を探す姿はとても印象的でした。



④「Let's play games !」【写真④】



海外のレクリエーションを用いながら、簡単な英語フレーズを楽しく覚えました。「What time is it, Mr. Wolf?」はこの日一番の盛り上がりとなり、英語フレーズを楽しそうに使う姿が見られました。

⑤「Let's review today's activities !」【写真⑤】



最後は、みんなで振り返りをしたり、アンケートを記入したりしました。参加者のほとんどが本事業に参加して「とても楽しかった」「楽しかった」と笑顔で回答してくれました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
83%	17%	0%	0%

② 参加者の声

- ・森の中のゲームが楽しかった。
- ・英語で話すのは緊張したけど、ゲームでたくさん喋れた。
- ・ALTの先生やボランティアリーダーとゲームができて楽しかった。

③ ALT・ボランティアの声

- ・参加者が楽しそうにゲームに参加し、英語を積極的に話そうとする姿は印象的だった。
- ・参加者一人ひとりと関わる時間がたくさん取れてよかった。
- ・最初は緊張していた参加者も、最後はみんな笑顔で取り組めていたので良かった。

7) 成果と課題

① 成果

- ・昨年度よりフォレストビンゴの時間を短くしましたが、参加者がゲームに集中して取り組むことができ、ちょうどよい時間配分となりました。
- ・単語の練習やフレーズ練習を少なくし、時間をゲームに割いたことで、楽しみながらフレーズを覚えることができました。
- ・スタッフの人数が参加者数に迫る人数だったため、参加者一人一人がALTやボランティアとたくさん関わることができ、英語のサポートや参加者の体調、安全を十分に確認しながら事業を進めることができました。
- ・最初はなかなかグループになじむことができなかった参加者も、ボランティアの支援を中心に手厚く支援を行えたことで、最後は全員で楽しく活動を行うことができました。

② 課題

- ・ALTとボランティアの間でゲームのルール認識がずれている場面があり、紙ベースの簡単な説明だけでなく実際に活動してみたり、活動している様子を動画などで共有したりなどの工夫が必要でした。
- ・ゲーム中にプレイホールを走り回ることがあり、すべりやすいプレイホールのため、人にぶつかったり、転んだりする参加者が見られました。安全上の観点から、体育館シューズの持参をお願いする必要性がありました。
- ・本年度は45名定員でしたが、24名の参加となりました。結果的に、参加者が少ないことで、一人一人に手厚い支援を行うことができましたが、より多くの方にこの事業を知ってもらえるような広報の工夫が必要でした。